■令和５年度　福岡市高速鉄道事業会計決算の概要

１　概　　況

(1) 総括事項

福岡市の高速鉄道事業は、昭和 56 年 7 月 26 日に空港線（1 号線）室見～天神間で営業を開始して以来、順次部分開業を続け、平成 5 年 3 月 3 日の空港線博多～福岡空港間の開業により、空港線と箱崎線（2 号線）の全区間が開業しました。また、平成 17 年 2 月 3 日に西南部地域における慢性的な交通渋滞の緩和等のため七隈線（3 号線）橋本～天神南間が開業、令和 5 年 3 月 27 日には天神南～博多間が開業し、空港線、箱崎線と七隈線を合わせて 31.4 ㎞での営業となりました。

福岡市交通局では、将来にわたって安全で快適な輸送サービスを提供していくため、令和 5 年度も、平成 31 年 2 月に策定の「福岡市地下鉄経営戦略」に基づき各取り組みを着実に推進しました。

① 業務実績

令和 5 年度の利用者数は、年間輸送人員 176,425,682 人（１日平均 482,037 人）で、前年度に比べて 30,733,429 人（21.1%）増加しています。内訳は、定期の利用者が 82,336,320 人（１日平均 224,962 人）で、令和 4 年度に比べ 8,682,900 人（11.8%）増加しており、定期外の利用者が 94,089,362 人（１日平均 257,075 人）で、同じく 22,050,529 人（30.6%）増加しています。また、乗車料収入（消費税抜き）は 312 億 9,605 万円で、令和 4 年度に比べて 58 億 179 万円（22.8%）の増となっています。

増客増収の取組みとして、地下鉄を利用した周遊イベントや沿線施設と連携したイベントの実施など、沿線の魅力や地下鉄の利便性のＰＲを積極的に推進するとともに、広告の販売促進やお客様ニーズに対応した新規店舗の誘致及び既存店舗区画の事業者公募など駅空間の有効活用、収益向上に取り組みました。

② 建設改良等

施設や車両等の健全性・安全性を確保するため、3000 系車両の列車制御装置の更新、2000 系車両の大規模改修、1000Ｎ系車両更新のための新造車両の製作及び土木構造物の改良工事等を実施しました。

また、快適で質の高いサービスを提供するため、2000N 系車両及び 3000 系車両の車内に防犯カメラを設置するとともに、中洲川端駅の空調設備の改善等に取り組みました。

なお、七隈線延伸事業については、安全対策に万全を期しながら道路本復旧工事等を実施し、事業は完了しました。

③ 財政状況

令和 5 年度の決算については、損益計算書等に記載しているように、総収益 389 億 7,453 万円に対し、総費用は 304 億 4,113 万円で、差引 85 億 3,340 万円の純利益が生じました。

この結果、令和 5 年度末における累積欠損金は 1,003 億 5,758 万円となっています。

以上、令和 5 年度の概況について報告しましたが、現在、経営環境の大きな変化等に対応するため、経営戦略の再構築に取り組んでいるところであり、今後とも安全・安心を最優先に、経営基盤の強化と質の高いサービスの提供に努めていきます。

(2) 経営指標に関する事項

令和 5 年度における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、輸送人員の増加に伴う運輸収益の増加などにより、令和 4 年度比 14.61 ポイント増の 127.13%となり、健全経営であるとされる 100%以上となっています。

また、独立採算性を示す他会計負担比率は、企業債の支払利息に応じて補助される特別債補助金が減少したことなどにより、令和 4 年度比 0.67 ポイント減の 3.94%となり、他会計への依存度は低下傾向にあります。

一方、有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す有形固定資産減価償却率は、七隈線延伸区間の開業に伴う新規取得資産の減価償却費の増等により、令和 4 年度比 1.32 ポイント増の 55.64%となりました。既存施設等の経年劣化が進行していますが、引き続き、アセットマネジメントによる計画的な施設等の更新に取り組んでいきます。

＜経営指標の推移＞

	R元	R2	R3	R4	R5
経常収支比率	122.41%	87.48%	100.22%	112.52%	127.13%
他会計負担比率	7.46%	5.75%	6.49%	4.61%	3.94%
有形固定資産減価償却率	55.52%	56.81%	57.96%	54.32%	55.64%